

学位論文要旨

幼児の幼稚園適応における親の関わり
に関する研究
— 中国山東省の例を中心に —

広島大学大学院教育学研究科
教育学習科学専攻 教育学分野

学生番号 D185412 氏名 陳 俊

序章 問題の所在と研究目的

本研究では、中国における幼児を育てる親の教育に対する関与と親子関係を明らかにし、それが幼児の幼児園適応にどのような影響を与えているのかについて分析することを目的にする。

中国では、幼児園は学校教育の「入り口」として重要な機会と認識されている。幼児にとっても、家庭の中の生活から幼児園への入園は、大きな変化が強いられ、入園を機に比較的自由な生活から規則正しい生活への移行、新しい人間関係の構築など、幼児が直面する課題が多くあることが知られている（陳、2023；Bronfenbrenner、1979；Ladd&Price、1987）。このような移行を控え、幼児がよりスムーズに幼児園に適応できるようになるために、適切な支援の必要性が議論されている（Reker&Wong、2013；Maccariら、2014）。

一方、家庭は幼児にとって生活と学びのもう一つの重要な場所である。幼児の発育発達において親の存在は大きく、幼児園での教育と同等な役割を果たしている（Breinerrら、2016）。特に、幼児の教育に対する親の関与と親子関係については、子どもの発育発達に密接に関連していると言われており（Anderson&Minke、2007；Archerら、2012；康と姫、2021）、さまざまな研究がなされてきた。

中国の保育においては、幼児の幼児園適応について検討する際に、主に教育環境や教師の関与に焦点を当てられて議論されてきており、親子関係について見過ごされがちであった。特に親の関わりと幼児の幼児園適応の関係性について、親子関係から分析した研究はほとんどないのが現状である。そのため幼児教育への期待が大きい中国では、今後研究において幼児の幼児園適応を促すために、親子関係の要因を視野に入れ、幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼児の幼児園適応の関係性を明らかにし、政策に活かすような示唆を提言する必要があると考える。

第1章 先行研究と理論的アプローチ

幼児の教育に対する親の関与は通常、家庭や学校の環境における親の態度や行動を指し、親の教育に対する価値観や態度、幼児に対する期待も含まれる（Englundら、2004；Honig、1979）。幼児の教育に対する親の関与に影響を与えている要因として、先行研究では家庭の状況（例えば、親の教育背景、家庭の収入、家族形態、育児自己効力感等）、子ども自身の状況（例えば、子どもの年齢、性別等）、外部による支援などがあげられている（Banduraら、1996；Jordanら、2001）。

親子関係に影響を与える要因を明らかにした研究は、様々な視野から検討されている。例えば、叶（2017）は、親の育児方法、親の文化的な教養、教育に対する意識、親の職業、夫婦関係、家族形態などの6つの側面から、その影響を与える要因について検討した。さらに幼児の状況（年齢、性別等）や家庭環境（家庭の子ども数、家庭の年収、家族形態等）は親子関係に影響を与えていると主張している研究もある（王、2020；王、2021）。

幼児の幼児園適応に関して、Britto（2012a, 2012b）は、幼児の学校・幼児園適応には「移行」（Transition）と「能力獲得」（Skill Acquisition）という2つの要因が関係するとし、

幼児が家庭環境から構造化された環境（幼稚園や学校）への適応を促すとしている。また七木田ら（2010）は、幼児の適応を「園環境における様々な影響の中で幼児自身が能動的に関わっていく過程」としている。幼児の幼稚園適応に影響を与える要因について、家庭、幼稚園、社会的環境など、様々な面によって異なるレベルの影響を及ぼしている（陳、2023；丁、2021；王、2015）としている。

本研究では、家族単位を複合的な社会システムと定義し、家族のメンバー同士が相互的に影響し合い、行動も互いに影響しあうものとする家族システム理論（Family System Theory；Bowen、1966、1972；Brown、1999；Brown、1999）に依拠する。

第2章 研究方法

本研究は量的研究であるアンケート調査と質的研究であるインタビュー調査を組み合わせた混合的研究法（Mixed-Methods Design）という研究方法を用いた。

本研究では、量的研究によって、中国における幼児の教育に対する親の関与、親子関係、幼児の幼稚園適応の全体的な傾向を把握する。また、その結果が実態を正しく表しているかどうか、及びその背後における親の動機、問題及び親子と共に直面している課題などについては、質的研究によって検証・探究する。

アンケート調査における研究データの分析は、SPSS ソフト（26バージョン）によって行う。

インタビュー調査における研究データの分析は、主題分析（Thematic Analysis）の方法を利用する。これはインタビューにおいて録音された内容をテキスト化し、その後、テキスト化されたデータから幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼児の幼稚園適応というテーマに関する重要な情報や概念を識別し、主題を生成する。この主題について、アンケート調査によって得られた結果や、中国の文化、教育現場の実情を踏まえながら多角的に分析する。

第3章 調査の準備と調査対象

量的調査の妥当性、信頼性を確保するために、本調査を実施する前に、予備調査を中国山東省青島市S幼稚園の幼児を対象に実施した。結果から、本研究で利用される各スケールにおけるコロンバック係数が0.7以上、各側面のコロンバック係数も0.6以上確認できたため、調査の信頼性が高いと判断した。

質的調査における主題の生成の信頼性を確保するために、インタビューの内容をテキスト化した後、それについて、第1回目の分析を行い、コードをつけ、主題の概念を生成した。その後、第1回目において概念化した主題に関する印象が薄くなっていくまで時間を置き、第2回目の分析を行い、最初からコードをつけ、主題の概念を生成した（大卫、2022）。

本研究のアンケート調査においては、山東省内の幼稚園に1600部のアンケートを配布した。結果として、1542部が回収された（回収率96.38%）。

インタビュー調査では、親と幼児は5組、10人であった。

第4章 中国における幼児の教育に対する親の関与の現状

本章では、中国における幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼児の幼稚園適応の関係性に対する分析の前提として、記述的統計と差異検定の手法を利用し、中国における幼児の教育に対する親の関与の現状を明らかにした。

また、分析によって得られた結果から、中国における幼児の教育に対する親の関与の現状の背後における原因及び課題について考察し、中国における幼児の家庭教育と幼稚園教育の実践上における示唆を提示した。

第1に、中国における幼児の教育に対する親の関与の水準が比較的高いことが明らかになった。「幼児の家庭学習への参加」、「言語と認知的活動」の側面においてより高い親の関与の傾向を示しているのに対して、「幼稚園との意思疎通」「幼稚園事務への参加」が最も低い傾向を示していることが明らかとなった。つまり、中国では親は、家庭と学校・幼稚園の提携の重要性を十分認識していないということが示された。

幼稚園は、さらに家庭との連携活動を開発し、家庭と幼稚園の連携の重要性や幼児の発達に「認知的能力と学業成績だけではない」という視点を一層の親に浸透させる事が求められるだろう。

第2に、差異検定（独立サンプルT検定とANOVA一元配置検定）の分析結果によって、幼児の教育に対する親の関与においては、様々な差異が存在していることが明らかとなった。

例えば、「親の職業」から見ると、一般企業に勤める親が、公務員である親と比べると、より関与の程度が低かった。これは公務員の勤務条件が一般的に安定しており（高、2014）、幼児の教育に対する関与が比較的に容易であることが原因であると考えられる。

「家族形態」の観点では、核家族と比べると、非核家族の親が幼児の教育に対する関与の程度がより低かった。つまり核家族家庭の親の関心が幼児に集中しやすい家庭環境ではないことを表していると考えられる。

このような特徴から、中国における幼児の教育に対する親の関与は、多様な要因に影響されており、各家庭の状況に応じた支援の提供と教育政策の柔軟な適用が求められるだろう。特に保育実践の面においては、職業が一般企業である家庭、非核家族家庭における幼児の教育に対する親の関与にさらなる関心を払い、より充実した家庭教育支援を行うべきであると言えよう。

第5章 中国における親子関係の現状

本章では、中国における幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼児の幼稚園適応の関係性に対する分析の前提として、記述的統計と差異検定の手法を利用し、中国における親子関係の現状を明らかにした。

また、分析によって得られた結果に基づいて、中国における親子関係の現状の背後における原因及び問題点について考察し、中国における幼児の家庭教育と幼稚園教育の実践上における示唆を提示した。

第1に、幼児の親子関係が比較的に「親密」（親子が互いに持っている情感的な絆の状況、

子どもが親から安心感を得られる度合い、および親が子どものニーズに応じて情緒的なサポートや指導を提供する能力など)の傾向を示していることが明らかであった。

第2に、差異検定(独立サンプルT検定とANOVA一元配置検定)の分析結果によって、親子関係においては、様々な差異が存在していることが明らかとなった。

例えば、母親と比べると、父親の方は親子関係がより「衝突」(親と子どもの間における感情的な摩擦、共感の欠如、互いの行為に対する不理解、親の期待と子どもの現状のズレなど)の傾向が見られた。これは、伝統的な中国文化の背景においては、父親が比較的厳格な教育方法を取り(袁, 2020)、規則や規律を重視している傾向があることに起因しているかもしれない。家庭教育の中で、父親と母親の教育方法、価値観が同じであることが、幼児の発達と成長にとって重要である(Brent&Thomas, 1998; 馬, 2004)という研究もあり、今後更に父親に対して、さらに幼児理解や関わりの支援をする必要がある。

そして、低収入家庭の親、非高等教育を受けた親、非都市地域の親は、親子関係がより「衝突」的な傾向が見られた。これは、経済的な困難が親の育児のプレッシャーとストレスを増加させること、獲得できる教育資源がより少ないことに起因している可能性がある(白と闫, 2018; Garciaら, 2017)。そこで、低収入家庭、低学歴、非都市地域の親と幼児に対して、家庭との連携の際など特に注目することが必要だろう。

また、幼児のきょうだいの数が増えることにしたが、親子関係における「親密」の傾向が低くなっていくことが明らかであった。それは、家庭内の子どもが多ければ多いほど、親が各子どもと触れ合う時間が少なくなり、子どもに対する関心も分散されることが大きな原因であるかもしれない。

中国の「一人っ子政策」が中止されたため、「きょうだいを有する家庭」も増えつつある。このような家庭における親子関係に対して、幼稚園側もより多く関心を払い、それらの親と幼児に向けてさらなる支援を行うべきだろう。

第6章 中国における幼児の幼稚園適応の現状

本章では、中国における幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼児の幼稚園適応の関係性に対する分析の前提として、記述的統計と差異検定の手法を利用し、中国における幼児の幼稚園適応の現状を明らかにした。

また、分析によって得られた結果に基づいて、中国における幼児の幼稚園適応の現状の背後における原因及び問題点などについて考察し、中国における幼児の家庭教育と幼稚園教育の実践における示唆を提示した。

第1に、中国における幼児の幼稚園適応の水準が比較的が高いことが明らかであった。

第2に、差異検定(独立サンプルT検定とANOVA一元配置検定)の分析結果によって、人口統計学的変数に基づいた幼児の幼稚園適応においては、様々な差異が存在していることが明らかとなった。

例えば、公立幼稚園と比べると、私立幼稚園の幼児の幼稚園適応のレベルが低く、特に「社会的能力」、「学びの志向」、「教室のルール」の側面において、差異が明らかとなった。

これは、中国においては、公立幼稚園の教師の専門性が、私立幼稚園のそれよりも高く、財政的、政策的にもより優遇されていること（邵と張、2017；金と黄、2023）に起因している可能性がある。

公務員の親の幼児と比べると、一般企業の親の幼児の方は幼稚園適応の水準がより低く、特に「社会的能力」、「学びの志向」、「教室のルール」の側面における差異が顕著であった。中国における公務員家庭は、経済的資本と文化的資本をより多く有しており、親から子への世代間移行を通して、幼児の発達や学業達成に影響を与えること（Pierreら、1978；郭、2016）に起因している可能性があると考えられる。

中国における幼児の幼稚園適応は「公」と「私」の間にギャップがつけねに存在していることがここからも窺える。そのギャップを埋めるために、私立幼稚園及び一般企業の家庭に対しては、教育の公平公正の立場から、配慮した政策が必要となると考える。

第7章 中国における幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼児の幼稚園適応の関係

本章では、中国における幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼児の幼稚園適応の関係性について分析し、特に親子関係が親の関与と幼児の幼稚園適応の間における媒介役割を明らかにすることを目的とした。

結果として、相関分析、線形回帰分析及び媒介分析の手続きを経て、親子関係は幼児の教育に対する親の関与と幼児の幼稚園適応の間において媒介役割を果たしていることが明らかとなった。

幼児の教育に対する親の関与は幼児の幼稚園適応に、直接的な正の影響を及ぼすだけでなく、親子関係を媒介として間接的な影響を与えるというダイナミックな関係性を持つことが示唆された。

これまで中国の幼児教育実践では、幼児の幼稚園適応に対する親子関係の役割が十分認識されてこなかったが、今後は幼児の教育に対する親の関与と親子関係と幼児の幼稚園適応を1つのシステムで考えながら、各家庭における親子関係に対する指導と改善をさらに視野に入れるべきという示唆を提供している。

本章の結果に基づき教育実践の面においては、より現実的な家庭教育支援を展開し、幼稚園を親子関係及び家庭教育水準を向上させるための重要なプラットフォームとするべき方法を模索する必要がある。

第8章 中国における親の関わりと幼児の幼稚園適応の再検討

本章では、質的研究の方法を利用し、インタビュー調査によって、中国における幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼児の幼稚園適応について考察した。

本研究における量的研究の方法によって、中国における幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼稚園適応の現状及び関係の傾向が明らかとなった。しかしその結果が実態を反映しているかどうかを分析するために、ここでは質的研究を併用し検証した。

これは中国における親の関わり背後における親の動機、問題及び親子と共に直面して

いる課題などに関して、質的なインタビューを行った。

結果として、幼児の教育に対する親の関与と親子関係が幼児の幼児園適応にとって重要な役割を果たしていることが明らかとなった。これは量的な調査と、その傾向と認識が一致していることが確認された。併せて質的なインタビュー調査によって、以下のような視点も明らかとなった。

第1に、親たちは、幼児の教育に関与する最も重要な動機が、幼児の広範な問題解決能力を向上させることにあると述べていたが、実際の関心は、幼児の認知的活動に集中していることが明らかであった。つまり、中国における幼児の教育に対する親の関与においては、「本音と建て前のギャップ」が存在していると言えよう。

このギャップを引き起こす原因として、中国の親が幼児の直面する困難や失敗からわが子を守ろうとする気持ちが強い（郭、2021）、幼児の個性やニーズを考慮することよりも、親自身の期待に基づき関与することが多いこと（朱、2020）などが先行研究によって示されている。

第2に、親は、過度的な関与が幼児の反抗を招いたり、幼児の自主性を損なったりすることを理解しているが、実際には幼児の教育に過度的に関与してしまう事例が多く語られた。つまり、中国における幼児の教育に対する親の関与においては、「認知と行動のギャップ」が存在している。この原因として、中国の親は、伝統的な教育理念の影響を受けていること、認知的能力以外の能力を育むための認識不足、そのためのリソース不足、またさまざまな子どもの可能性を評価するための方法の不足が考えられる。

上記のようなギャップを解決するために、親は幼児教育についてより適切な理解をする必要があるだろう。中国の親に対して、より適切な教育方法、資源をさらに提供し、幼児が認知的、感情的、社会的などの全面的の分野においてバランスの取れた発達を遂げるために、教育行政、教育機関及び社会全体の協働が求められると考える。

終章 結論と今後の課題

本研究の目的は、中国における幼児を育てる親の教育に対する親の関与と親子関係を明らかにし、幼児の幼児園適応にどのような影響を与えているのか分析することであった。

各章における調査と分析によって、家族システム理論の視野において、幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼児の幼児園適応はダイナミックな関係性を持っており、幼児の教育に対する親の関与は幼児の幼児園適応に直接的な影響を与えるだけでなく、親の関与が親子関係を媒介としているメカニズムによって、共に幼児の幼児園適応に影響を与えていることが明らかとなった。

中国の幼児教育実践において親子関係が幼児の幼児園適応に対する影響があることについて認識が不足していた。今後は、教育施策にとっても、親子関係と親の関与と共に幼児の幼児園適応を促進するための方策について理論的な依拠を提供したと考える。

本研究は以下のような今後の課題があげられると考える。

第1に、本研究は横断的研究であるため、結果における因果関係を追求することが難しいという面もあった。今後、縦断的研究を行うことによって、親の関わりと幼児の幼児園適応における関係性をさらに深く探究し、本研究の視野を広めることができるだろう。

第2に、本研究において、特定の人口統計学的変数の幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼児の幼児園適応の関係性における差異を明らかにした。しかし、本研究の視野に入れた以外の変数も多く存在している可能性が高いため、それに関するさらなる研究の必要性が明らかとなった。

第3に、比較研究の視点を取り入れることによって、異なる文化的、経済的背景を持つ地域や集団における親の関わりと幼児の幼児園適応の関係性を比較することもあげられる。それによって、本研究において明らかにされたことが中国の独自の特徴であるかどうか、また、文化的や社会経済的要因が親の関わりと幼児の幼児園適応にどのような影響を及ぼしているのかについて、さらに探究することができるだろう。